

第14回アジア国際子ども映画祭（韓国）プログラムの記録

1. オンライン交流概要

【目的】映画制作に関心を有する韓国の青少年が、過去の映画祭作品の鑑賞や制作した自己紹介動画を通じた同世代の青少年との交流等を通して、映画制作や日本に対する関心・理解をさらに深め、両国間の青少年のネットワークを構築するとともに、韓国で日本の魅力に関する対外発信を行うことを主目的とする。

【参加者】韓国の高校生 10名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数 実績）
1回目 3月8日	<p>【オリエンテーション】開会式 【テーマ関連意見交換・交流】 ①過年度映画祭受賞作品視聴 ②意見交換</p>	<p>作品視聴後の意見交換では、インドネシア・タイの参加者とグループになり、過去受賞作品の中から印象に残った作品や演出技法についてディスカッションした。 その他にもお互いの国での学校生活等についても紹介し、相互理解を深めた。 (参加者：10名)</p>
2回目 3月9日 兵庫県	<p>【表敬訪問・交流】 兵庫県南あわじ市 ①地域理解講義 ②質疑応答</p>	<p>講義では映画祭開催地である南あわじ市の魅力について紹介があり、特産物や交通アクセス、南あわじ市におけるコロナの現況等について質問があがった。 (参加者：10名)</p>
3回目 3月15日 兵庫県	<p>【地域伝統文化体験】 ①淡路人形座 淡路人形浄瑠璃鑑賞 ②質疑応答</p>	<p>淡路人形座から生中継で公演を鑑賞したあと、質疑応答の時間を持った。「人形を動かす技術の習得にはどのくらいの時間がかかるのか、学校はあるのか」「どのような演目が難しいか」等、たくさんの質問があがった。 (参加者：10名)</p>

<p>4回目 3月19日</p>	<p>【テーマ理解講義】 「映画作りのヒント 映画の基本的な特性について知る」 講師：東京藝術大学 大学院映像研究科 教授 諏訪 敦彦氏 ①講義 ②質疑応答 【交流会】 ①日本の高校生との小グループ別での交流会実施 ②映画をはじめPOPカルチャーに関する意見交換 【成果報告会】</p>	<p>講義では映画の表現方法等に関する質問が多く出た。 過去 JENESYS 参加経験のある高校生との交流会では、日本のアニメをはじめとしたPOPカルチャーについて活発な意見交換が行われた。 総括として本プログラムで得た成果を1人ずつ発表し、参加者全員で共有した。(参加者：10名+日本人参加者：11名)</p>
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 記録写真

	
<p>2022年3月8日【オリエンテーション】 映画祭開会式</p>	<p>2022年3月8日【テーマ関連意見交換・交流】 参加者間での意見交換</p>
	
<p>2022年3月9日【表敬訪問・交流】 兵庫県南あわじ市</p>	<p>2022年3月15日【地域伝統文化体験】 淡路人形浄瑠璃鑑賞及び質疑応答（淡路人形座）</p>
	
<p>2022年3月19日【テーマ理解講義】 「映画作りのヒント 映画の基本的な特性について知る」</p>	<p>2022年3月19日【交流・意見交換】 日本の高校生との交流会（映画をはじめPOPカルチャーに関する意見交換）</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 高校生

さまざまな国の参加者と1つのテーマについてディスカッションすることができて新鮮で楽しい経験だった。今まで知らなかった地域についても知ることができ、人形浄瑠璃についても知ることができた。また、日韓交流の時間は期待通り、たくさんのお話をすることができて嬉しかった。

◆ 韓国 高校生

コロナ禍でありながらも、さまざまな国の参加者と映画のお話をすることができて有意義な時間だった。特に諏訪敦彦教授の貴重な講義を聴講できたことは光栄であった。また、日本の学生との交流時間でも映画という共通点を通じてお互いの文化を理解し友達になることができて意義深かった。

◆ 韓国 高校生

グローバル時代にこのように映画というテーマで交流できること自体がとても有意義だったと思う。日本文化について学び、交流する機会がありとても幸せで楽しい時間であった。コロナ禍でなければ日本に行きたいと心から思った。

◆ 日本 高校生

韓国の学生と一緒に自分の国についての説明や日常の様子などを話し合うことによって、普段とは少し違った観点で自国や他国を見ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

◆ 日本 高校生

今回は「映画」というひとつのテーマがあり、各々の観点の違いや映画を通して日本と韓国という2つの国の魅力を知ることができた。また、お互いの国について深く学ぶことができたため、これからも交流した韓国の友達と仲良くしていきたいと思う。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆南あわじ市関係者

さまざまな体験や交流を通じて、日本の文化や芸術に触れて頂ける機会であるとともに、私たちもみなさんとの交流によって文化や風習を理解する大変貴重な機会であると思っている。初めてオンラインで実施することになったが、ぜひとも国内・海外問わず幅広く交流をし、将来にわたり国や地域を超えた友人を作ってもらえればと思う。


◆淡路人形座関係者

非常にいい経験ができた。これからの新たな可能性を感じた貴重な時間であった。

◆講義講師

みなさんがこれから作る映画を楽しみにしているし、見られる日が来るといいなと思っている。映画は世界中でつながっているのだから、またきっとみなさんに会えると思っている。

6. 参加者の対外発信、報道記事等

<p>했다. 영상 프리뷰에서 다른 사람이 질문하는 걸 본다면 정지된 화면으로 손을 들어주세요.</p> <p>나는 다크모드의 인형을 움직이는 사람들이랑 항상 일하고 움직이는 거 귀찮을 때부터 해왔는데 처음 다크모드의 인형을 조종할 수 있는 사람들이 많아주셔서 정말 좋았다.</p> <p>대담이론 인형이 화면이 다 채워지고 할 수 있는 사람이 내기 때문에 리미트 인형을 조종하는 사람들이 부른다. 또 한쪽 그 옆이 있는 국어인 인형을 다룰 수 있는 사람이 10명이 된다고 한다. 하지만 개인적 국어인 있는 것이 우리에게도 있을 수 있다.</p> <p>이 프로그램에서 지금까지 있었던 활동 중 가장 좋았던 것 같다. 한 가지 이유는 얼마 동안 동시 번역을 할 때 일본어가 들리지 않아서 자막으로 나옴이란 다 좋았을 거 같 생각이 들었다.</p> <p>그럼 오늘도 여기서 조금!</p> <p>*이 나뭇에서 사진을 찍어 사진을 잘 찍어주세요. 감사합니다</p> 	
<p>2022年3月15日 (NAVER blog)</p> <p>人形浄瑠璃では1つの人形を3人で動かす。そのため3人の呼吸が重要であり、うまくいかないと人形の動きが不自然になってしまうと思った。しかし、実際に見た人形浄瑠璃は本当に自然な動きで驚いた。あんな風に自然に人形を動かせるまでどのくらいかかるのか気になっていたが、約8年かかるという・・・</p>	<p>2022年3月19日 (instagram)</p> <p>コロナ禍でも世界の人と映画について話せて嬉しかった。特に諏訪先生の講義が聞けたことが光栄であったし、日本の学生との交流の中でも映画という共通点によってお互いの文化を理解し友達になれたことがとても有意義だった。次は実際に南あわじ市を訪問して、制作した映画が紹介できることを期待している。</p>
	
<p>2022年3月19日 (instagram)</p> <p>映画という文化の中で他の国の友達と交流し、親しくなることができる活動はとても楽しく大きな意味を感じることができた。機会があったらまた参加したい。</p>	<p>2022年3月20日 (NAVER blog)</p> <p>講義で視聴した映像資料は映画の演出について深く考えることのできる資料であった。特に最後に見た映像が印象に残っていて、これが演出の醍醐味であると感じるきっかけとなった。今まで映画についてはあまり詳しくなかったが、演出に興味を持つようになった。</p>

7. オンラインプログラムの成果発表



最終日に成果報告会を実施した。発表された主な内容は以下の通り。

- 映画の魅力を改めて感じた。将来は在日同胞に関する作品を制作したい。
- 15の地域と国の友人と同じ目的のもと集い交流できたことが嬉しかった。
- 日韓交流がしたくて参加した。映画をテーマにした交流は初めてだったが、とても新鮮で楽しかった。将来はワーキングホリデーや留学で訪日したい。
- 将来は映画の道に進みたいので、その道が開けたような経験となった。
- 日本の学生と交流して、同じような悩みがあり、同じようなことに関心を持っていることがわかりとても親しみを感じた。元々日本にはあまり関心がなかったが、これを機に関心を持っていきたい。
- 将来、日本で映画の勉強をすることが夢だったので、今回のプログラムはとても役に立つ内容であった。諏訪教授の講義もとても有意義であり、夢へ一歩近づいた。
- 映画祭を通じて普段から関心のあった映画や日本文化についてより深く知る機会となり、日本への関心が一層高くなった。コロナが終息したら日本を訪れたい。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金